

生産者通信

NPO法人
米マーケティングセンター
定価 100円(送料込)

河原酢造の取り組み

その1

合名会社 河原酢造
河原泰彦

経緯編

私は福井県大野市という町で米酢の醸造業を営んでいます。米酢は原料からまず酒を造り、その酒をもう一度発酵させて造ります。家業の後継を志した際、造り酒屋と米農家に研修に行こうと思いい立ち、当時、JAS有機の原料米の供給を受けていたエコ・ライス新潟さんにお世話になりました。今から7年前のことになります。

阿部社長、笠原・布施さんのもとで勉強させていただきました。当時、「研修生日誌」を連載していました。皆様、覚えてらっしゃいますか？

2シーズンの稲作・畑作を経験させて頂き、帰郷した後、地元で原料供給を受けていた農業法人で引き続き、稲作に挑戦しました。ほ場の管理をさせて頂き、初めて一貫した栽培管理を行いました。しかし、2年後にその農業法人が経営困難な状況に陥り、私の農業の取組みも継続ができなくなりしました。そもそも原料の大半の供給を受けていた取引先

でしたので、自社の原料調達根幹を揺るがすほどの事件でしたが、石川県や秋田県にて、JAS有機での栽培に取組む大型農家と知り合うことができました。当初は遠く離れた地域から原料を仕入れなければならぬ状況、不本意と感じました。しかし、何度か足を運び、ほ場を見せて頂いた。様々な話を伺うことで、それまで知り得なかつた手法や価値観に巡り合うことができて、大変、良い勉強になったと思います。

いづれの生産者も広大な干拓地で農業を行って居るため、まずその土地の広さ、機械類や作業体

系スケールの大きさに圧倒されました。何事においても算段の単位が桁違ふというか、今までは自分なんて小さな事に捉われていたのだらう。という気持ちにさせられました。条件はその土地に依りけり、干拓地の手法を直輸入できるわけではありませんが、大きな衝撃をもって見聞を広めることができました。

原料の買入れに問題がなくなつたとはいえず、4年間に渡り継続した農業への思い入れは強く、自ら作る道はないかと模索していました。そんな中、市内の農家で御年70歳になられる方から、耕作の打診を受けました。3・5畝を耕作していらつしやいますが、年齢を理由に耕作量を減らしたいとのことでした。

JAS有機の取得経験もあり、現在は特別栽培認証にて無農薬の認証を受けておられます。栽培履歴等から、有機認証の取得が可能であることも確認でき、耕作をさせて頂くこととなりました。

自社栽培の詳細編

耕作面積は6反8畝と7反6畝のほ場2枚で、計1町4反5畝になります。兼業であること、また有機栽培で行うことを勘案してこの面積が限度であると判断しました。いづれも区画の大きい整形田でパイプ灌漑、暗渠排水も整備されており、機械の作業性は大変良好です。



1) 肥料散布



2) 苗代づくり。ビニールハウスではなく、路地で苗を育てる



3) トンネル。苗がある程度の大きさに育つまでビニールで保温



4) 播種1週間後。今年の4月は低温で苗の生育は遅め

大野市は標高千五百m級の山に囲まれた盆地で、山々から涵養された地下水を各家庭が汲み上げて飲用できる環境です。県内でも最上流部に位置し、整流が農業用水として利用できる素晴らしい環境です。冬季は豪雪に見舞われ、春季の水は冷たすぎるのが難点です。

(裏面へ続く)

農業の担い手は少なく、集落単位での生産組合は年々、拡大しているように見受けられます。現在、29歳の私が日々、田んぼ仕事をしていると奇異の目を向けられます。農家の会話で、「若い人が」という場合、その人は50歳代であることが多いようです。

雑草対策は耕作依頼者さんが実施していた紙マルチ農法を踏襲しています。新潟での研修時、笠原茂樹さんが取り組まれていたこともあり、久しぶりに紙マルチのロールを担ぎあげ、懐かしさを感じると共に、その重さが堪えました。区画の大きな

ほ場であるため、夕方ごろ、最後に植える部分(排水側)が過剰に乾き、紙が剥がれやすくなるのが難点でした。ほどよく水分がないと、紙が田面に定着しませんが、実際、複数個所で紙がめくれ、補修や手植えなどが必要になりました。来年は、乾きやすい部分にはポンプアップした水を供給するなどして、乾燥を防ぐように思います。

当地区では、畦畔の防草・保護のため、シートで被覆して芝桜を定植しているほ場が多々あります。シート下は芝桜の根で畦畔を保護し、シート表面は繁茂した芝桜により、

紫外線から保護されます。資材費は市から補助を受けられますが、作業手間は自己負担です。草刈り1年分くらいの手間は、酷暑の暇はかかりませんが、酷暑の

草刈りからは解放されます。定植のためにシートに開けた穴からスギナなどが生えてしまいうデメリットもあります。私のほ場では、法面は防草ネットにしているところもあります。シートとは異なりネット下には雑草が繁殖するので畦畔の保護にも繋がります。ネットには助成はなく、シートより高価です。

栽培しているのはイクヒカリという福井県の奨励品種で、コシヒカリの親戚筋です。やや短稈で倒伏しにくく、育てやすいということ。コシヒカリより

多収でやや早生と聞いています。乾燥機を地主さんと共用するので、収穫期のずらしという点、トレーサビリティーの観点からもこの品種を選定しました。今年4月は例年になく低温で、稲作りに苦勞しました。路地プールで育苗しましたが、芽出し直後の保温のためビニールトンネルをなかなか外すことができませんでした。当地は5月の連休まで夜明けの霜に注意しなければなりません。

低温に加え、晴天も少なく、田植えスケジュールがやや遅れました。私のほ場は5月14日、

15日の2日間で植えました。紙を丁寧に敷くために、あまり田植え機を歩かせることができず、7反6畝という面積をこなすのに1日というのはギリギリの時間だと感じました。機械の発売元である三菱農機さんが行うデモなどでは、一般の田植え機と遜色のないスピードで行うようですが、私には考えられません。田面の水加減のほんの少しの按配で、表面の泥を押し流すような形になり、隣の列の紙の上に泥が上がり、雑草がその部分に生えてしまふといえます。私は満身創痍でゆっくりと



5)田起し



6)荒がき



7)定植作業。紙マルチを敷きながら苗を定植。定植前の田面の粒々した物体は大量のタニシです。



8)一面が紙で覆われたほ場と栽培者

合名会社河原醸造
住所・福井県大野市吉8-25
電話・0779-66-3275



植えましたが、やや泥が紙の上にあがり、多量なりその部分に雑草が生えてしまふそうです。代かきの方法、水管理、田植え機の操作などなど私には未熟な部分が多い山あります。もつと精進して、楽々と1日で綺麗に植えられるようになりたいものです。
《河原泰彦記》